

**経済建設常任委員会  
視察研修報告**

**視察日**

平成24年10月4日～5日

**視察先**

・群馬県吾妻東部衛生施設組合

・八ッ場ダム及び地域防災センター「やんば館」

**視察目的**

・震災がれき受入れ及び家庭ごみ新分別収集について  
・ダム建設経緯等について

**視察内容**

経済建設常任委員会は、平成24年10月4日に群馬県吾妻郡の吾妻東部衛生施設組合、翌日には群馬県吾妻郡長野原町に建設されている八ッ場ダム関連施設と地域防災センター「やんば館」で事業の経緯等について視察研修しました。

吾妻東部衛生施設組合は、吾妻郡中之条町、東吾妻町、

高山村で構成され、一般廃棄物の共同処理を目的に設立された一部事務組合です。平成24年5月には、岩手県と東日本大震災により岩手県宮古市で発生した一般廃棄物「災害廃棄物」の受入れに関する基本協定を締結し、6月8日から受入れを開始しました。受入れ災害廃棄物の種類は、可燃性混合廃棄物（木くず、紙くず、プラスチック等）です。処理方法は、吾妻東部衛生センターの可燃ごみ処理施設において、通常搬入される一般廃棄物と災害廃棄物を混ぜて焼却処理を行っています。住民の放射能に関するさまざまな懸念に対して、独自に放射能濃度の測定をして、住民説明会を15区域20回にわたり開催（安全性を数値で）、また災害廃棄物処理に関するガイドラインと放射能管理マニュアルを制定し、住民が不安を持たないよう万全を期した結果、現在に至ったようです。

また、家庭ごみの新分別収集については、既に13品目に分別し収集しているそうです。なお、本村でも平成25年4月から燃えるごみの中から再生可能な資源物の分別に取り組むことになっています。



吾妻東部衛生施設組合にて

翌日5日は、八ッ場ダムと地域防災センター「やんば館」を視察研修しました。八ッ場ダムは、利根川の主要な支流である吾妻川中流部、群馬県吾妻郡長野原町川原湯地先に建設が進められている多目的ダムです。平成27年度の完成予定で、完成すれば関東1都5県の水がめとしては、9番目のダムとなります。八ッ場ダ

ムは治水機能のほか、利水機能も持っており、茨城県も水利権を保有している関係で事業費を負担しています。平成21年8月に政府方針の見直しにより、本体工事の着工が一時中止されましたが、平成23年12月に建設再開が表明されました。

平成11年4月にオープンした地域防災センター「やんば館」は、八ッ場ダムのために水没する長野原の方々の半世紀近くに渡るご苦労と、ダムの必要性をご理解いただくために開設した施設です。八ッ場ダム建設に至るまでの歴史・ダムの役割がわかりやすい展示で紹介されていました。



建設が進む八ッ場ダム